6　本講座の受講の仕方・順序

インプットとアウトプットがある

インプットからアウトプットへ。

インプットは、重要知識を中心に扱う。どんどん受講する。インプットを一通り終わらせたからといって知識が完璧という状態ではないことに注意。

アウトプットは、事件解決型（具体的事案型）と一行問題型（説明問題型）。前者は本番でも出題されるタイプ、後者は法学部の定期試験や法科大学院入試で出題されるタイプ。

「インプットしたからアウトプットできるわけではない」ことに注意。

アウトプットは、序盤のアウトプットとそれ以降のアウトプットに分かれるイメージ。序盤のアウトプットは、「その後のインプットの質を高める＝法律の勉強のコツをおさえる」ことを意識。

インプット、アウトプットいずれも、予習は不要。復習は軽く読み返すくらい。「復習していて進められなかった」は NG。

「分かろうとする」のが大事

分からなくてもＯＫ。「分からないのが当たり前」。

常に「分かろうとする」姿勢で「勉強し続ける」ことが大事。

「何となく分かった気がする→でもできない→さらに分かった気がする→少しできるようになった気がする→もっと分かった気がする→ようやくできるようになってきた」という積み重ね。